景風と園庭

第十卷 第四號

日本庭園協會

庭園と風景 第十卷第四號 通卷九十六號
昭和三年五月 三日印刷納本
昭和三年五月 五日發行
定價金三十五錢（送料二錢）

日本庭園協會創立十年紀念大會

五月二十・二十一日東京に於て

紀念大會要項（多少の變更あるべし）

五月二十日（日曜日）

甲、紀念講演會（午後二時—同五時）

會場（赤坂區溜池町一、三會堂）

乙、造園參考圖書展覽會（正午—午後六時）

會場（同上）

丙、祝賀晩餐會（午後六時—同八時）

會場（同上）

五月二十一日（月曜日）

丁、名園見學會（午前八時半—午後四時）

見學場所　イ、後樂園　ロ、大塚公園　ハ、其他

（注意）新宿御苑の拜觀を願ひ出づる豫定である。

尙ほ特に紀念大會參列者に對し二十二日には東京市內外の名園其他の見學の便を圖る筈

□大會參列者へ

◇豫告の通り本會創立十年紀念大會がいよ〳〵東京で開催せられる。期日は新緑の五月二十、二十一日の兩日で、第一日には赤坂溜池の三會堂で午後から夜に亘つて講演會と祝賀晩餐會とが催され、傍ら造園參考圖書の展觀が行はれる。第二日は名園見學會である。

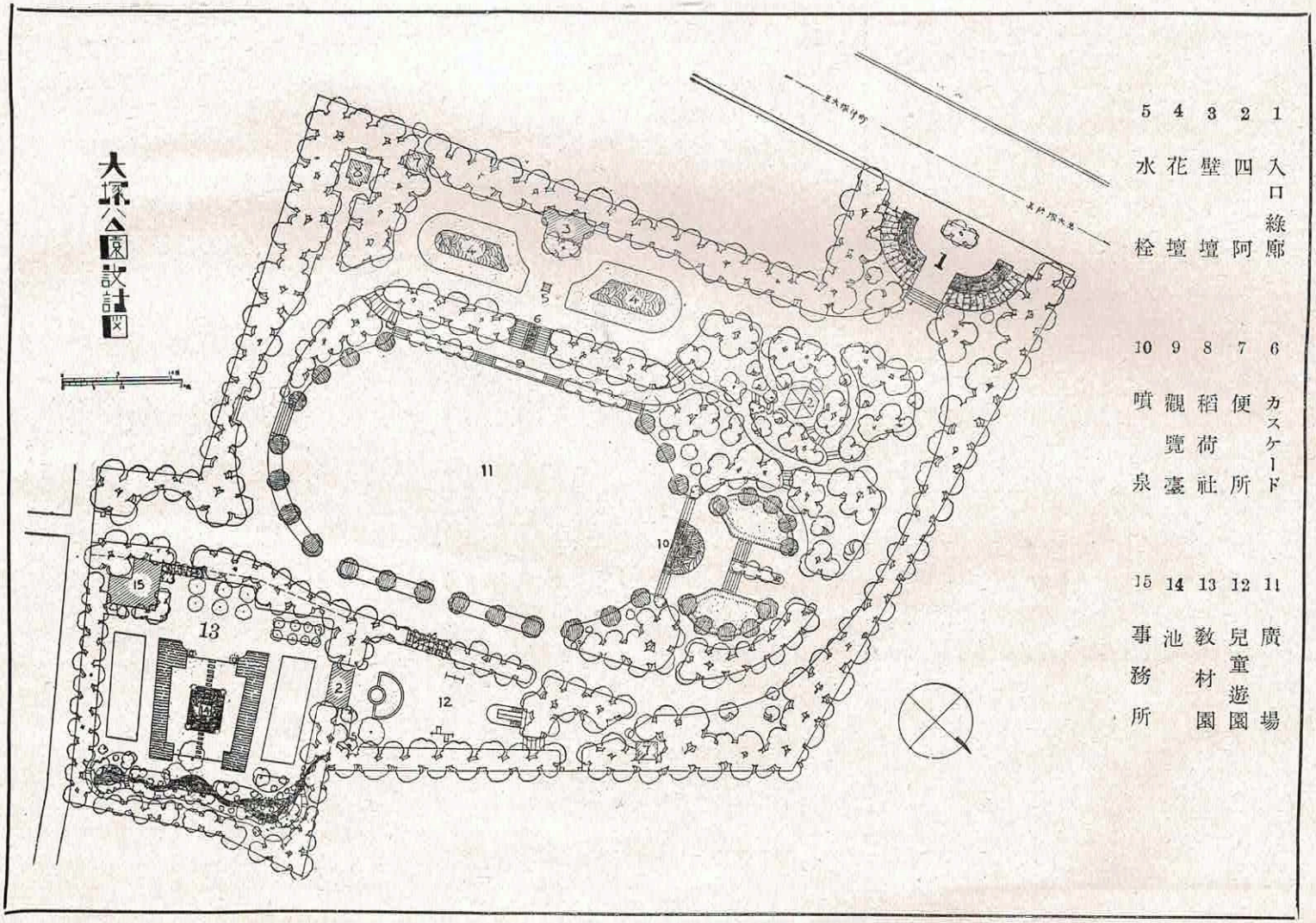
◇第一日の講演は本邦代表的の專門大家數名が、多年の御研究や平生抱懷せらるゝ御意見を發表せらるゝので、聞き洩すべからざるもののみである。聽講隨意であるから會員以外の來聽者も少なくはあるまい。成可く早く開會前に入場せられたい。

◇祝賀晩餐會は簡單な祝賀の式典と會員の懇親會を兼れたもので、遠隔の會員から寄せられる祝電や祝辭は此の席で披露されるし、紀念寫眞の撮影も行はれるのである。贈呈するお土產袋の內容に就ては記者も知らない。

◇第二日目の名園見學會は東京では殆んど最初の試みであるっ從來は講習會の折に催された位で、今度のやうに大規模ではなかつた。見學庭園に就ては目下交涉中のものを加へると一日には終るまいかと思はれる。勿論、宮內省關係の御庭も拜觀したい考である。

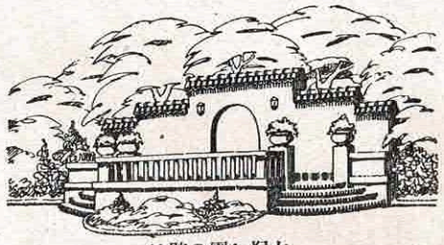
◇庭園以外の所でも造園關係者の見て置くべき所が尠なくない。夫等特別の便宜を與へて呉れる所、是亦見逃がしてはならない。然し之は結局、篤志家だけに殘された問題で、また大會の延長された第三日目の見學とも見られやう。

◇櫻花は無くとも、牡丹芍藥の咲き誇る頃、繪日傘の欲しき頃、上野博覽會も漸やく混雜せざる頃、同じ會堂に職業又は趣味を同じくする會員諸君が全國から集つて、共に語り共に祝ふことは、どんなに愉快であらう。切に望む、全會員擧つて來り壽ぐことを。


大塚公園設計図
1 入口
2 四阿
3 壁壇
4 花壇
5 水栓
6 カスケード
7 便所
8 稲荷社
9 觀覽臺
10 噴泉
11 廣場
12 兒童遊園
13 教材園
14 池
15 事務所

新しい都市公園
大塚公園の設計施工 下

東京市公園課長　井上清


大塚公園の壁壇

東京市の公園に一時代を劃する新公園が出現した。それは三月卅一日開園した小石川區大塚公園である。

面積は僅かに四千坪の中級公園と云はんよりは、方面公園の面積の稍々廣いものであるが、最も劣悪な地を巧に利用したことゝ、各種の建築的修飾とは殘存せし在來の老樹と共に本園の特色となつて居る。

此の地は元養育院の敷地であつてそれが大正十三年板橋へ移轉した後、市の保健及び社會事業に分割供用されたものであつて、其の際他に利用し難い崖地と窪地にして、而も不整形で高低の差二十尺餘に達し、他の事業に於ては何にも避忌された土地四千坪を公園積立金を以て買收されることになつたのであるが、養育院時代は舍宅と荒廢した茶畑と、腐れて居つた舊舍が在づた程で、構内中でも手の付けやうのない土地とされて居つた。

斯かる土地を坪百圓を以て引受けたことは、乏しい公園經濟にては大なる苦痛に相違なかつたが、一面には他に利用し難い土地を善用すべく最大の努力をして新公園が出來上つた事を思へば、公園としても亦東京の土地政策上から見ても、造園的の働きを認め得ることになる。

如上の事情の下に新公園地を山の手北部に於ける方面公園としてまた將來中小公園組織の範となるべきものとして計企されたのであつて、全體設計としては相川要一君が主任となり、設計に着手したのが大正十五年の夏であつた。

案を更むること數回、苦心の結果いよ〳〵今日の大塚公園の根本設計を決定したのが、同年の秋であつて、直ちに技術部員總動員の形で、各部を分擔して設計に從事し、愈々起工したのは昭和二年一月であつた。

本園の特色は前に述べた如く地勢を巧に利用したことに依り、實面積より餘程廣大な感を有することゝ、建築修飾を多く試みた事である。

先づ公園として何時も不快を感ずる門構を廢して、シカゴ市ドクラス公園南口に似た半圓形の綠廊と池を以て入口を裝ふた。材料は鐵筋混凝土、リシレ仕上、大理石張付で、木の架材を被ひ、廻廊内は腰掛となり、其の姿は前の細池に影を映して居る。此の設計は柳生績君である。

入口綠廊から下れば突當りが椎の密林で、老株の下には伊豫青石が扣へ、正門内の壯重さを示して居る。此の密林の内は日本風に取扱つたものであつて、個人庭園であれば月見の茶屋と云ふやうなものでも設けたい處である。此の部分は下の低地に對し眺望臺となつて居るので、一つの傘亭を突端に建て、それから崖を左右に下る小路がある。傘亭は鐵骨鐵筋混凝土仕上の茅葺自然木に凝したものである。

正門内から前の密林の傍を過ぎ大公孫樹の下を通つて西側の高地に至れば、南歐風の庭となり細長い中央は芝生花壇となり、其の中央横斷軸線は上段から下段まで貫通し、此の線上に種々の修飾的景物が配置されてある。即ち西端にはスパニシ風壁壇が東面し、其の前に柳生績君意匠の青銅製球狀の水栓が左右に在る花壇の核心を爲して居る。上段から下る階段も此の線上に設け、中央をカスケードとし、左右を階段としたものに依り中段まで降り、中段で一大露壇となり低地の大廣場の横正中心に臨んで居る。

此の樣式は異つて居るが一貫した施設は相川要一君の手に成つて居る。此の露壇は廣場を種々の場合に利用する際には演壇となり、舞臺となるものであつて、壇下は壁泉をなしてゐる。

そして上下兩園を結ぶ崖地の中段に觀覽臺を兼ねた散策路を設け、其の左右斜面には二十餘種の灌木が刈まれ紅紫とりどりの葉色で四季變化ある模樣を織出して居る。

大廣場は面積約二千三百平方米、細砂仕上げで、東南北の三方には山櫻の並木を廻らし運動會場或は集會場として好適である。大廣場の西北部は洋風庭となり、中央の大谷石の圓盤から流下する清水は長方形の池に湛へられ、背後には大谷石の燈籠を圍むツヽジを主とした植込みを中心として半圓形の芝生が設けられて居る。此の水盤、燈籠及び其の附近の景物は柳生績君の設計である。

此の芝生の西方即ち正門からすれば突當りの幽邃なる密林は園内最も閑雅の趣ある處で、西寄崖地の突端は眺望所となり傘亭が設けられ、木の間から大廣場を俯瞰することが出來る。

大廣場の東方苑路を隔てゝ面積約四百平方米の兒童遊戯場があり、遙にスパニッシ壁壇やカスケード階段と相對して上野眞友君の設計になれる洒麗な藤棚が建てられて遊園の門となり、中には砂場、滑臺、ブランコ等を配置し、南隅に瀟洒な休憩所がある。

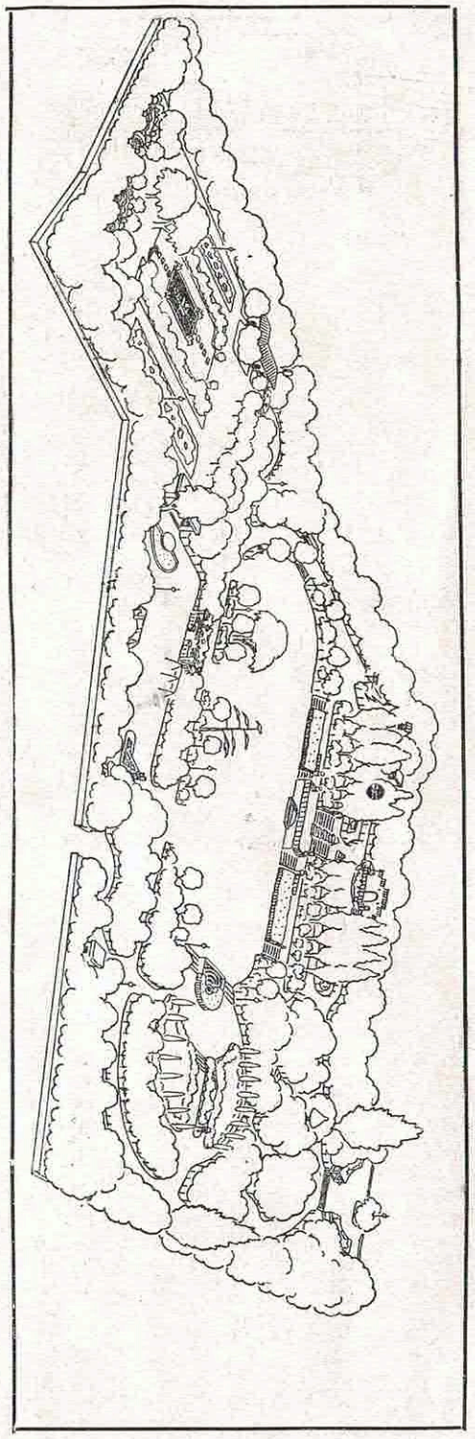
其の南隣は即ち本市に初めて設けられた教材園で廣さ千八百五十平方米あり、中央は洋風平庭とし周圍を自然風植栽地となし、東方境界沿ひには小丘を築き溪流を鑿ち、岩石を配し、之に大小各種の樹木下草を植込み、山岳、江湖を模し、其他の三面は教材植物の植込地となつて居る。

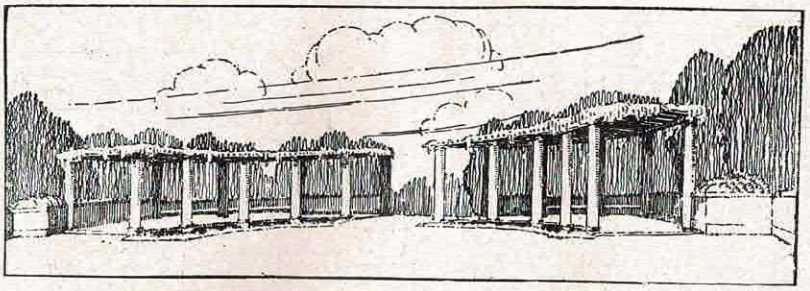
園内に植栽した植物の種類は、教材園の内外を併せて三百種を數へるが、順次蒐集して近い將來に於ては小學校教材から、市内の庭園や街路に植栽さるるものまでも、之を整理植栽しやうとして居る。

園内には兒童遊戯場寄に休憩所があり、野外教室にも充てられ、南隅には事務室と小研究室が設けられて居る。

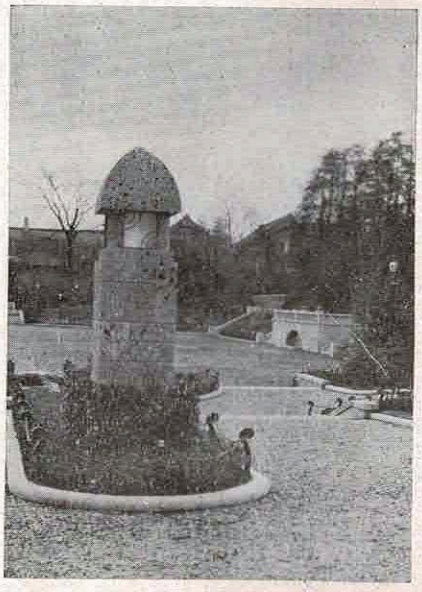
教材園は管理上自由開放はしないが希望者は事務所に申出て入園することが出來る。事務所には園内植物の豪帳を備へ、管理指導者を配置してある。此の教材園の一切の設計は井上武男君の努力になるものである。

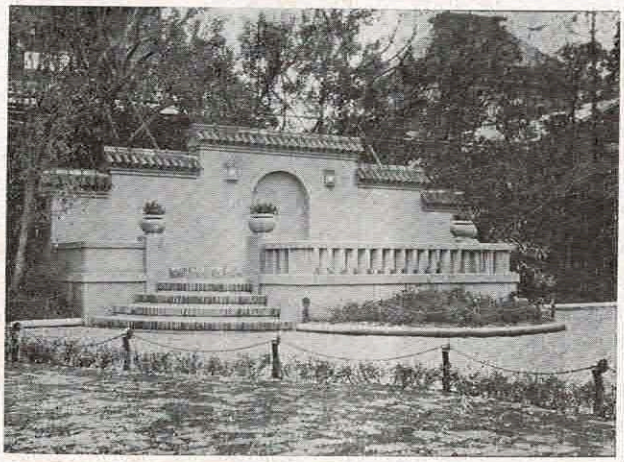
其他便所、電燈、露床等一般公園的施設は適所に設けてあつて、本市の中級方面公園として標準的のものである。


大塚公園配置圖



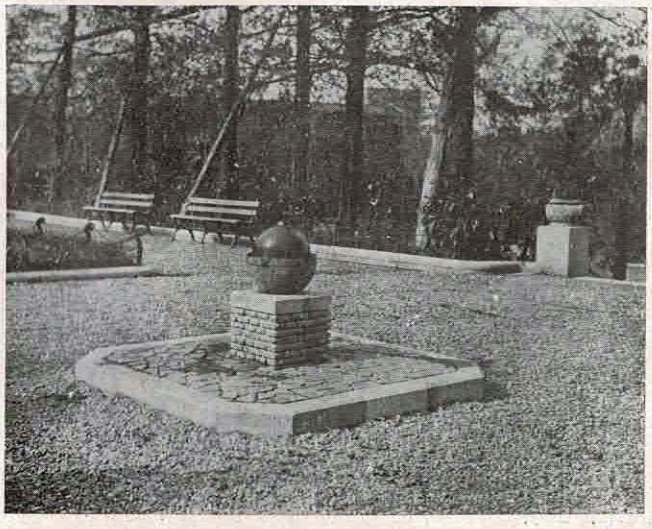
上、入口綠廊





大塚公園の細部

中、右　スパニッシ壁壇
　　左　大谷石の燈籠



下、青銅製球狀の水栓